

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700268
法人名	医療法人青峰会
事業所名	グループホームかざぐるま
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町大久1391-1
自己評価作成日	平成28年6月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『かざぐるま』は目の前に宇和海が広がり、近隣には保育所・小学校があり裏には山、緑に囲まれて自然に恵まれた開放的な環境の中で家庭的な雰囲気と地域住民との交流の元で利用者の方々が穏やかに安心して日常生活を営む事が出来る様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

伊方町は、亀ヶ池温泉の優待券を高齢者に配布している。入居前から通っている方もいるような馴染みの温泉であり、事業所からも、利用者3～4名ずつで福祉風呂を利用できるよう支援している。その日の天気や利用者の状態をみて、職員から誘い外出できるよう支援している。海の様子を見に散歩することもある。畑には、夏野菜を育てており、手入れをしたり、収穫したり、作業するのを見に行く等、外に出る機会になっている。

地元の商店を利用している。地域行事に参加できるよう支援している。小・中学生の体験学習等での訪問が2～3ヶ月に1度程度ある。担当の先生からは「事業所で過ごす時は子ども達がやわらいだ表情になる」と感想があった。保育園や小学校の運動会の際には、敬老席で見学したり、競技にも出場した。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームかざぐるま

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

清水 千鶴

評価完了日

H28年 6月 17日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 認知症であっても、1人ひとりが地域にとけ込んで当たり前で暮らせるよう謳った理念を掲げている。	
			(外部評価) 「認知症であっても、一人ひとりが地域の中であたりまえに暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」と理念を作り、居間と事務所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地元の保育所・小学校との交流が定期的であり毎月、いきいきサロン(社協主催の介護予防行事)に利用者様も一緒に参加しており、地域行事(クリーン運動・津波避難訓練等)にも参加しており、近所の商店に買い物と一緒にいき、地域との交流を図っている。	
			(外部評価) 地元の商店を利用している。地域行事に参加できるよう支援している。小・中学生の体験学習等での訪問が2~3ヶ月に1度程度ある。担当の先生からは「事業所で過ごす時は子ども達がやわらいだ表情になる」と感想があった。保育園や小学校の運動会の際には、敬老席で見学したり、競技にも出場した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 学校の職場体験・運営推進会議時に認知症の理解・グループホームの役割などを説明し理解を深めて頂く様に努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者様・グループホームの現状・サービス内容や活動・研修報告や、講師を招いて救急時の対応や防災時の協力依頼・協力等を話し合い、意見や感想等を取り入れて今後のサービス向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 会議は、「避難訓練」「高齢者虐待について」等、毎回テーマを決めて行っている。避難訓練に参加した地域の方からは、職員の避難誘導時の対応についてアドバイスがあった。民生委員の方には、「地域防災会」について教えてもらい、応援要請をしたらどうかとアドバイスがあった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入退居時や介護認定更新時の情報共有、町のケアマネジャー連絡会に出席して情報交換を行い、毎月、町の介護相談員の訪問があり、意見や感想を書いた書類が届き、事業所からも意見や感想を記入し、町に提出し、連携に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の日に介護相談員の訪問日を合わせて、会議にも参加協力してもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人の勉強会や研修会に参加して、身体拘束への理解を高め、身体拘束にならないように職員間で話し合って、代替ケアを検討実施している。</p> <p>(外部評価) 法人で毎月、「高齢者虐待」についての勉強会を行っている。運営推進会議では、言葉遣い、声かけの仕方等についての事業所の取組みを報告している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の勉強会や研修会に参加して、虐待防止への理解を高め、虐待の定義・規定に関して理解に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議時に行政からの説明を得たり、地域密着型サービス協会主催の研修に参加し、学ぶ機会を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居手続き時は、契約書や重要事項説明書等を十分に説明し、理解を頂き、退居時は利用者様・ご家族様が安心出来るように配慮しながら説明し、理解・納得して頂けるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族様の面会時・ケアプラン変更時・毎月の請求書に写真・コメントを添付してご家族様の意見・要望を聞き運営・最良のケアに繋げるように努めており、緊急時・状態変化時はその都度、ご連絡し情報交換と今後のケアに繋げている。 (外部評価) 毎月、担当職員が日々の様子や外出時の写真を掲載した便りを作成して家族に送付している。行事案内や、日々の様子等については、管理者が手紙にして同封している。年1回家族会を行っている。昨年は、法人の「くじらフェスティバル」に利用者と一緒に楽しめるように参加を呼びかけた。	緊急時、家族と連絡が取れず、困った事例があり、家族との連絡体制について再考したいと考えている。今回の家族アンケート結果等を参考にして、家族への報告の取り組みについて、さらに工夫してしてほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎日の申し送り時・月1回のスタッフ会時・半期に1回の管理者面接時に意見・要望を聞く機会を設けより良い運営に反映されるように努めている。	
			(外部評価)	
			4月に管理者の交代があり、今回の自己評価は、管理者が長年勤務する職員に聞き取りしながら取り組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			法人内で年に2回、人事考課表を取り入れ、努力や実績・勤務状況等を把握して評価を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人からの補助金制度もあり、法人内外の研修会に順次参加してもらえるように進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			月に1回は、法人内の施設長が集まる会議があり、連絡・意見交換等を行い、他事業所と、互いに運営推進会議に招いたり参加したりし、情報交換を行いサービス向上に取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に面談し、アセスメントを十分に行い、本人の思いや今までの生活歴や生活サイクルが無理なく出来るよう、信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談し、アセスメントを十分に行いご家族様の思いや要望等を傾聴し、施設でのサービスを説明し理解の上、安心して信頼して頂けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 施設での対応が困難な場合は、他施設等に相談・紹介するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事全般(料理・洗濯・掃除・畑仕事等)を一緒に行う事により、昔の出来事や方法等を聞き教えて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時や電話連絡時に近況を伝え、意見・要望を頂き、面会・行事参加依頼をお願いし、本人様との関係を続けられるように、機会を作るように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人・知人の来訪時には、一緒に写真を撮ったり(自室に飾り)利用者様の暮らしぶりを話したり、自宅近くや自宅まで外出援助して大切な方、場所を忘れないように努めている。 (外部評価) 伊方町は、亀ヶ池温泉の優待券を高齢者に配布している。入居前から通っている方もいるような馴染みの温泉であり、事業所からも、利用者3~4名ずつで福祉風呂を利用できるよう支援している。普段は入浴を断る利用者も喜んで入っている。時には、利用者の実家周辺にドライブに行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様の特徴・相性を把握して、なるべく一緒に仲良く過ごせるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも来訪して頂けるように努め、施設外であっても積極的に挨拶・声かけを行い、連絡も取るようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で意思疎通が困難な方にも、本人の視点に立って行動や表情等から思いや意向を把握するように介護記録に記載しケアプランに反映出来るように努めている。 (外部評価) 昼食は、ゆっくり話ができるように時間をとっている。調査訪問時には、利用者の出身地の話題やテレビから話題を提供して話をしていた。又、食事中お椀を持って立ち上がる利用者を止めることなく、意向を聞いていた。	利用者に聞きながら支援することに努めているが、得た情報を蓄積、整理して介護計画につなげていくような取り組みもすすめてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前後に本人様・ご家族様から生活歴等の聞き取りを行い、昔の話や若い頃の思い出等の会話の中から価値観等も把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様1人ひとりの、日々の過ごし方や体調・行動・言動等を介護記録に記載し、変化を毎日の申し送り時に報告し全スタッフに周知するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月のスタッフ会で利用者様個々のADL確認と最良のケアを話し合い・ご家族様から意見等を聞き取り・本人様の立場に立って意向を検討してケアプラン作成・モニタリングを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族には、来訪時や電話でケアや暮らしへの要望を聞き取り、職員間で話し合っ介護計画を作成している。介護記録の上部に計画内容を記入して、職員で共有し支援できるようにしている。職員それぞれ毎月、違う利用者のモニタリングを行う仕組みを作っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>食事・排泄等、暮らしの様子を介護記録に記載し変化や気を付ける事があれば、申し送りや業務日誌に記載して全スタッフが把握出来るように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人様・ご家族様のニーズに応じて通院・外出・外泊支援に臨機応変に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近隣地域の保育所・小学校とは密な交流が定期的であり、協力して頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月1回協力医療機関の往診があるが、本人様・ご家族様の希望に応じて、かかりつけ医や専門医への受診は、ご家族様のご協力を得て、なるべく同行して頂くようお願いしている。どうしてもご家族様の都合が合わない場合はスタッフが付き添い介助を行っている。	
			(外部評価) 月に1回全員の利用者が、協力医の往診を受けている。週1回、医療連携看護師の訪問があり、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携看護師が母体から週に1回は訪問し、入居者状態報告書を毎日FAXして、相談しながらアドバイスを貰い体調管理に努めている。状態変化時は24時間連絡が取れる体制がある。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者情報を病院に提供し情報交換に努め、主治医・ご家族様と相談しながら、対応できる状態で早期退院出来るように支援している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時、本人様・ご家族様に医療連携指針に基づき、重度化し看取りの必要が生じた場合の対応等を説明している。	
			(外部評価) これまでに看取り支援は行っていない。利用契約時に、事業所支援について説明を行っており、現在、家族は、他介護施設に申し込んだり、最期は入院を希望している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			法人内の看護技術勉強会に参加したり、消防署の救命講習を受けたり、急変時のマニュアルを整備している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年に2回、消防署の指導により、夜間・日勤想定火災、年に1回は津波の避難訓練を実施し、地域の防災訓練にも参加し、災害時は地域住民・消防団員の協力を依頼している。	
			(外部評価)	
			6月には、運営推進会議を兼ねて夜間の火災想定避難訓練を行った。居室からも避難できるように、スロープを設置しており、今後は、手すり設置の予定がある。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			利用者を傷つけないように排泄確認・声掛け・誘導を行うように配慮している。全スタッフが個人情報保護法を理解し、利用者のプライバシーに関わる事を外部に漏らさないように徹底している。	
			(外部評価)	
			今年度、法人で毎月「接遇委員会」を行っており、事業所からも委員職員が参加している。又、言葉遣いや挨拶等についてのチェックシートを使って、職員が自分自身について点検している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			食事の献立・おやつ・買い出し時の食材選び・着る服を選んで着て頂けるように、出来るだけ利用者様に自己決定する場を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先しないように、利用者様本位の生活サイクル・思いに合わせた支援を心掛けており、意思疎通が困難な利用者様については、思いを推し測り、ゆったりと穏やかに過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節毎の衣類をご家族と相談して入れ替えて頂いたり、購入依頼し用意して頂く事もある。2ヶ月に1度、地元より出張散髪が来所され、整髪に気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑の世話を一緒にし収穫し、買い出し、料理の準備から一緒に参加して、利用者様の席の間に座り、食事しながら団欒している。テーブル拭き・お膳拭き・下膳・食器洗い等も積極的に手伝って下さっている。	
			(外部評価) 法人栄養士が作成した年間献立表をもとにして、地元商店で購入できる食材を使って食事を作っている。現在は、調理専門の職員が昼・夕食を作っている。朝食は、週2回のパンの日以外は、事業所でご飯とみそ汁を準備しておかず2品は外注を利用している。調査訪問時は、今年初めて収穫したカボチャを使用していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は栄養士がチェックした物を使用し、食事や水分摂取量を個人記録に記入して、スタッフが情報共有しており、食事量・水分量低下時は、代替品や好みの飲み物を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて介助を行い、週に1回は義歯洗浄剤を使用して口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排泄確認し、介護記録に記載して排泄パターンを把握して、声掛け、必要に応じて介助を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>夜間もトイレで排泄できるように支援している。自分でパッド交換しやすいように、トイレ内の見える位置に排泄用品を収納している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>食事には汁物・繊維質を含んだ献立を心掛け、午前・午後・食事時・就寝前の水分摂取を十分に行い、日中は食事前の体操・散歩・家事手伝い等で適度に身体を動かす事により自然排便出来るように促している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入浴前に入浴声掛けを行い、バイタルチェックし気持ち良く入浴をして頂けるように努め、体調不良や気分の乗らない等で入浴されない時は、着替え・シャワー浴・清拭等で利用者様の無理のないように対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人で入りたい利用者には、必要時には声かけして見守り支援している。入浴を拒む利用者には、入浴剤を選んでもらう等楽しみに入浴できるよう支援している。又、仲良しの利用者に誘ってもらって、一緒に入浴してもらうようなこともある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日中、利用者様の希望に応じて昼寝の時間や、身体を動かしたり日光浴する時間を作り生活リズムを整え、安眠と休息が取れるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個々の薬ケースを設置し、飲み間違いの無いように2重チェックは義務づけており、薬情にて薬名・効能・副作用を各自で確認し周知している。内服前は名前・日付の確認を再度行い、利用者様に応じたケアを行っている。状態変化時はかかりつけ医・医療連携看護師に報告指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 畑仕事・草引き・食事準備や料理手伝い・お膳拭きや台拭き・洗濯物干し・たたみ・掃除等を一緒に行ったり、編み物をされたり、歌やカラオケが好きな方には希望に沿って支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の体調や天候・訴えに応じて、食材の買い出しや散歩、ドライブに誘ったり、気分転換出来るように外出支援を行っている。	
			(外部評価) その日の天気や利用者の状態をみて、職員から誘い外出できるよう支援している。海の様子を見に散歩することもある。畑には、夏野菜を育てており、手入れをしたり、収穫したり、作業するのを見に行く等、外に出る機会になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様のお金の管理が難しい方は、立て替え金という形で管理しており、利用者様で強い希望をされる方は、ご家族様よりお小遣い程度を本人が管理されている方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望時に、ご家族にその旨の説明・承諾を得て負担のならない程度に電話で話せる機会を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>カーテンを利用して光を適切に調整したり、居間や廊下には施設行事・生活で撮影した利用者様の写真を貼って、利用者様が自分の住んでいる家だと安心感が持てるように工夫している。居間とキッチンが同じ空間にあるので食事を作っている様子やご飯の炊ける匂いが嗅げ、生活観が感じられるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>昼食後には、テーブルを拭く、床の掃き・拭きそうじ等を行う利用者の様子が見られた。利用者がいつでも手に取れるように本を置いており、般若心経や童話の本を読む利用者がある。居間には、七夕飾りやボランティアで来た方の川柳を飾っていた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関前・テラスには、椅子があり、利用者様の希望される時に1人で思いにふけたり、気の合う利用者様同士で寛げるスペースがある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に馴染みの物を持ち込んで貰って結構ですよと促しているが中々、持ち込まれる物が少なく、殺風景になりがちなので、ご家族の写真や施設行事での写真、園児・小学生からのプレゼント等を飾って工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>散歩時に拾ってきた貝殻を紙に貼り日付を書いて壁に飾っている方があった。ひ孫さんが作ったものや家族写真を飾っている方もあった。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室入口には手作りの表札を利用者様に応じて分かり易いように工夫している。トイレ・浴室の札位置を目線の位置に付けたたり、大きくしたり、手摺り・トイレ内の改修を行い、車椅子・歩行器使用者でも安全に使用できるように工夫している。</p>	